



チェンマイ大学

Chiang Mai University

タイ王国



●学部学生 約27,000人 ●大学院生 約7,700人 ●教職員 約11,000人

ホームページ <http://www.cmu.ac.th/>

交流協定締結年月日：1990年4月24日 主管学部：農学部



チェンマイ大学正門



第7回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウム



看護学部学生IO長表敬訪問

国際交流の特色

タイ北部のチェンマイ市（首都バンコクから北に飛行機で1時間）に位置する。1964年にタイ北部に最初に設立された高等教育機関として、教育、研究、地域貢献、国民文化・環境の保全に多大な実績を上げてきた。タイの大学ランキングで教育と研究の両面で最高レベルの評価を受けている。2019年に創立55周年を迎えた。市内3ヶ所と周辺1ヶ所を合わせたキャンパスは、1,400haと広大である。21学部、大学院、3カレッジ、1スクール、1研究所を有し、学部生約27,000人、大学院生約7,700人が在籍する。日本に留学したことのある教員も多い。キャンパス内に学生寮のビル群がある。留学生用の上級な寮もある。近年の国際化は目覚しく、ASEANのハブ大学としてメコン川流域圏のミャンマー、ラオス、カンボジア、ベトナム等の周辺国から積極的に学生を受入れている。人文学部には日本語学科に加えて日本研究センターもある。チェンマイは京都のように美しい古都であり、文教と観光の都市である。標高は約300mあり、バンコクに比べて気候は涼しく、日本人には暮らしやすい。2019年10月14日付の同大学のホームページには、我国の台風19号による被災者へのお見舞いが掲載された。

交流実績（平成28年度～30年度）

年度	教育学部			経済学部			法学部			創造工学部		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
受入・派遣												
学生の受入	8	6	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0
学生の派遣	10	6	6	13	5	10	1	0	0	6	9	4
研究者・職員の受入	4	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
研究者・職員の派遣	3	3	3	2	1	1	0	0	0	6	2	3

年度	農学部			医学部医学科			医学部看護科			インターナショナルオフィス		
	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
受入・派遣												
学生の受入	2	1	1	4	5	0	4	6	6	0	0	3
学生の派遣	1	0	16	1	3	10	5	6	8	0	0	0
研究者・職員の受入	15	1	1	3	5	2	1	1	3	2	5	0
研究者・職員の派遣	2	1	2	22	4	7	9	3	5	0	0	4

教員・学生からの声

教育学部とCMUの人文学部は2011年2月に細則を結びました。教育学部では、毎年3月頃にチェンマイ大学人文部に学生を連れて行きます。約2週間程度の異文化交流プログラムの特徴は下記の通りです。1) バディー制度。タイでの活動は主にCMUの学生と一緒にです。2) チェンマイで日本語を勉強している高校生の家族とのホームステイ。3) タイの地方の小中学校を訪問し、3泊4日の交流・ホームステイ。4) CMUでCMUの教員によるタイ文化・歴史・経済・少数民族等の授業を受ける。5) 事前研修で、出発する前にタイ語の授業を3回開いてからタイに行く。また、夏にはCMUの学生を受け入れており、このプログラムでは、1) 附属学校での授業参加・タイ文化・タイ語の紹介等。2) 教育学部での授業参加。3) 日本文化に触れ、異文化を体験する。といった特徴があります。教員を目指している学生にとっても、コミュニケーション能力を育成するのにとても役立ちます。

教育学部教授 佐藤 明宏

チェンマイ大学は多種多様で自由な大学です。数多くの学部学科があり、様々な国籍の学生が多くいます。私はチェンマイ大学に社会学部生として留学しましたが、経済学や人文学、政治学等のクラスを受けました。ですので、様々な学部の先生に教えてもらい、より幅の広い知識・経験を積むことが出来ました。また、チェンマイ大学は敷地面積が広いことも魅力的です。広大なキャンパスを大学の無料バスで行き来する生活は、日本ではなかなか味わえなかったと思います。そして、タイでは日本のことが好きな方が多いので、大学やお店等で会う方々にはとても喜んで接してもらえました。日本や日本人のことを、タイの方がどのように思っているかを実感できるよい機会でした。チェンマイ大学生として4ヶ月間生活出来たことは、今でも本当によい経験だったと思っています。

法学部4年生 東 祐太郎

5年前から香川大学経済学部とチェンマイ大学経済学部間において、学部学生及び教員のShort Visitの交流を行っています。その中から数名はあとでSemester Visitに行きます。

予算等の関係で、今年はShort Visitに行けませんでした。それでもIOのプログラムで経済学部より2名が勉強のためにチェンマイ大学に行きました。

来年度8月末に10名程度の学生をチェンマイ大学及びインドの大学に連れていき、両大学で観光の経済学の勉強をする予定です。

今年経済学部中心のJoint Symposiumに1名の研究者が論文発表のために来てくれるなど、今後、ますますの交流が期待できます。

経済学部教授 ラナデ. R. R

医学実習IIで2019年2月24日から3月19日までの期間チェンマイ大学に留学しました。海外の病院で実習を行う経験ははじめてだったので、留学前からとても楽しみでした。実習では内科病棟に配属されてチェンマイ大学の学生と一緒に院内で実習に参加しました。講義や回診、外来診察などを通して指導医や研修医の先生方に丁寧な指導をしていただきました。また、大学の周囲には数多くの寺院や伝統的な建造物があり、休日にも街を散歩することができて十分に楽しむことができました。実際に留学を終えて帰国してみて、さまざまな経験ができて新しい知見が得られたのだと徐々に実感することができました。特に現地で実際に見て体験しないとわからないこと、例えば日本とタイとの患者との接し方の違い、身体所見の取り方の違いなどですが、これは思っていたよりも数多くありました。他にも現時点では実感が湧いていないことも含めて、1か月弱と短期間ではあっても将来役立つような経験は豊富にあったと思います。みなさんもぜひ一度留学することをおすすめします。

医学科6年生 長岡 悟史

私はチェンマイ大学に看護学生として約10日間留学させていただきました。病棟の見学や大学の最先端の実習設備や授業の体験を通して、タイの医療や死生観・教育などを実際に学ぶことができました。その中でも、やはり現地生徒との関わりが1番印象残っています。慣れない英語や文化に対して期待と不安を抱えていた私達に、様々なことを教え・支えてくれたのは彼らだと思います。そして、文化の多様性・人の多様性に触れることで、自国や自分の中での医療への取り組みを改めて見直すことができたと思います。10日間という短い期間でしたが、毎日新しい発見や驚きばかりの密な毎日を通して、日々成長を感じることができました。このような機会を与えてくださった香川大学の先生方、現地の方々をはじめ、全ての方々へ厚く感謝しております。

看護学科2年生 磯崎 実矩

創造工学部は、都市環境コースを中心に数多くの先生が研究面、学生の研究と交流がなされており、10年以上の交流があります。2017年度は、当コースの学生12名と教員2名が4日間の予定で工学部を訪問しました。当方の学生6名がチェンマイ大学工学部学生に向けて、英語による研究発表を行いました。チェンマイ大学側も、同様の発表を行い、学生同士の良き交流となりました。さらに、タイの建設現場の見学なども行い、建設業の違いを学びました。チェンマイ大学との共同研究は、ステューバと呼ばれる仏塔の耐震性を調べるために加速度計を設置し、地震観測を2015年から観測を行い、得られた観測波形から仏塔の特性を求める研究をチェンマイ大学と共同で行っています。また、交通計画の共同研究も進んでおり、ますますの研究交流が進んでおります。

創造工学部教授 松島 学

本学とチェンマイ大学(CMU)との学術交流協定の締結後に、二度のJICAプロジェクト(1993-98, 2003-06)で、多くの教員・研究者が往来して植物バイオテクノロジーや省農薬技術の指導・研修が行われ、これが希少糖、生物資源利用、農業経済、植物病理・栄養、昆虫等の多様な共同研究に進展しています。CMUの農・農産・理の3学部から多数の優秀な留学生を受入れ、特に2002年からのAAP特別コースによってその数が増えました。派遣留学の人気も高いです。両大学間の広範で多数の交流実績に基づき、本学はCMUを海外国際交流拠点校と定め、そのプラットフォームとしての合同シンポジウムの開催を2007年からCMUにて始め、農・工・医学部等の教職員・学生45人が参加しました。その後、交流は文系3学部等にも拡大し、2回目を2008年に本学にて(CMUの43名を招聘)実施し、以降隔年で交互に開催しています。2009年からの農学研究科のアジア人財資金構想事業以降、食の安全を学ぶ留学生を輩出し、JASSO支援のSSやSVプログラムの実績も挙げました。修士課程のダブルディグリープログラムが2012年から(CMUは農学と農産学の2研究科)始まり、CMUからの受入れは、花き園芸学、植物病理学、食品化学、昆虫生態学、応用酵素化学と続き、本学からの派遣は昆虫生態学の2名で、すでに修了しました。

農学部教授 片山 健至

インターナショナルオフィスはCMUに学生派遣をしている一方、CMUから学生の受け入れもしています。まず、「Explore」というプログラムを通して、本学の学部生を交換学生として派遣しています。通常は年に2、3名を派遣しています。派遣先は社会学部と経済学部です。受け入れは、日本語と英語による授業を含むSanuki Programという受け入れプログラムを実施して、特別聴講生を受け入れています。他に国費の「日本語日本文化研修留学生」も同大学の日本語学科から受け入れています。

インターナショナルオフィス教授 ロン・リム